

● 設立披露パーティー

有馬朗人会長の挨拶

皆様、今晚は。

この頃、私はあっちこっちで「原子力をやろうよ」と話しているのです。その時、必ず、「廃棄物をどうするのか」「廃棄物はこういうふう処理すべきだ」と話をするのです。

また、もう一つ、日本は、物資がないから「リユース (Reuse)」（2度も3度も使え）「リデュース (Reduce)」（なるべく節約せよ）、それから「リサイクル (Recycle)」せよと付け加えています。

「俳人」と言われると、私も廃物になったのかなと、ゾッとするのはですよ。ですから人遍（にんべん）の方の「俳」ね。だが、人遍の俳（ハイ）も余りいい意味じゃない。「人に非ず」と書くのでね。・・・どうみても「ハイジン」は余り良い意味は、持たないですよ。まあまあ冗談はさておきまして、ここに出席の皆様は大変お忙しいのにおいで下さいましてありがとうございます。

先ほどの設立総会・理事会でも申し上げたことですが、私はもっと日本人、元気を出したらどうかと思うのですよ。私は、残念でしかたがないのは、「失われた10年」という時、何か日本の経済が悪かったようなことばかりで、アメリカのオバマ大統領も言っています。私は、逆だと思うのです。あの経験を日本は持っていたから、日本の経済は他の国よりはるかに安定している。

先週はアメリカにいました。その様子、新聞などを見ていると、日本の方がはるかに安定していると思います。そういう意味で、日本は、あの「失われた10年」は悪かったのではなくて、自分自身を鍛えたわけで、経済を救って、新しい経済に持っていったわけですから。もっと自信を持ったらいのじゃないかと思うのです。違いますでしょうか。

そういう意味で、私は去年嬉しくてしかたがなかったのです。皆さん、去年10月頃、世界中が経済状態が悪くなってしょげている時に、日本だけです。ノーベル賞が4人いっぺんに出たり、山中細胞が出たりですね。科学技術の上では、世界で一番元気がいいのです。新幹線だって、たびたび言う

けれど、素晴らしいじゃないですか。事故は全くないし。原子力だって一昨年、あれだけ大きな地震がありました。我々は自信を持っていいわけですよ。我々は、現場を見に行きました。7号炉も、4号炉も、みんなピシッと全然傷ついていないのです。あんなに素晴らしいことはない。そういうわけで、私は、ぜひ、皆様方、日本の経済、日本の産業、日本の科学技術は、素晴らしいのだと言いたい。ついでですが、若い人たちの学力だって下っていません。

去年のもう一つの喜ばしかったことは、テムスという世界の調査がありましたが、その中で日本の子供達は、堂々と2番、3番のところに上っています。理科の力が、素晴らしいのです。そういう意味で、もっと自信を持って頂いていい。もちろん、自信過剰はいけないのですが。

まあまあ、「失敗学」の権威の畑村洋太郎先生（当協会の諮問委員）、会場におられますが、失敗したら畑村先生に直してもらえばいい。失敗した時には、失敗の対策を取ればいいのですよ。ですからね、政治家の方々にも、ぜひとも、我々が自信を持ってやる方向へ持って行って頂きたい。

このことをお願い致しまして、今日のモット（MOT）の発足式を大いに祝ってやって頂ければ幸いです。

繰り返しになりますが、本当にお忙しい時に、しかも、現在の経済情勢の中で、大変日夜奮闘しておられる方々が、こんなに大勢ここにお出まし頂きましたことを、心より感謝申し上げます、ご挨拶と致します。

本当にありがとうございました。